防災：空間等

キーワード：街の安全、安心の構築者、自然の中で

■街は安全か
「地震、火事、おやじ、怖いもの代名詞でした。おやじは今では??ですが、これまで地震や火事が街や村を襲ってきたからです。阪神淡路大震災など各地震や津波の経験は現代人の恐怖心を増大させました。近年、日本人的死亡原因の第1位は急性脳症、第2、3位も病気ですが、そもそも、家や街や村に、人間を災害や病、事故などから守るという機能が備わっていなければなりません。さらに、犯罪から守られることも期待されています。果たして今、街や村は、安全なのでしょうか。

私は1956年広島市の都市部生まれで、これまで11回転居し、広島市都心部、農村部、世田谷区住宅地区に、木造戸建住宅あるいは鉄筋コンクリート造集合住宅に居住してきました。これまでの居住経験から、安全・安心のテーマに沿って建築物や敷地、道路や住環境の関係性について私見を述べさせていただきます。

■安心の構築者は誰か
起きずはならないことでしたが、耐震構造計算倉庫事件を受けて建築の設計、審査のあり方が世に問い直され、資格者としては大変残念なことでした。地震現地である我が国において、建築物が一定規模の地震に耐えられることは利用者の生命や財産を守るために最低限必要なことです。私はさらにコミュニティが崩壊しつつあり、地球温暖化防止が求められている時代に、我が国には都市居住に関する新たなルールが必要と考えています。

これは、主に建築物のデザインコンセプトとして
a 高次都市機能エリア（非居住地）以外では、原則として30m以上の高さの建築物は建築できない
b 接道前面道路の幅員長さ以上の高さの建築物は建築できない
c 都市の都市的土地利用は中密度コンパクトシティ型に移行する
d 都市居住地区は、住用付仕用地と商業・業務付仕用地地区として、コーポレーション街や家族世帯の5階以下居住を誘導する
e 建物の総面積を200m²以上の建築物とする、です。

図1: 住用付仕用地の地域環境誘導イメージ

図2: 商業・業務付仕用地の地域環境誘導イメージ

図3: 都市居住イメージ：「ひろしま都心ビジョン」2005.2 広島市

NII-Electronic Library Service